

科目名	博物館情報・メディア論						学 期	前 期	
副 題	博物館における情報の活かし方を考える				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・1

授業の目的と概要

博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代のICT社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

授業の到達目標

博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身につけ、活用することができる。

授業計画

1. 〔事例研究〕博物館によるオンラインでの情報発信
2. 「データ」と「情報」の位置付けと定義
3. 博物館における情報資源の意義と活用(1) 博物館資料のドキュメンテーション
4. 博物館における情報資源の意義と活用(2) コレクション情報の組織化
5. 博物館における情報資源の意義と活用(3) 情報のデジタル化
6. 〔事例研究〕各種のデータベースとデジタルアーカイブス
7. 博物館における情報資源の意義と活用(4) デジタルアーカイブス・データベースの構築と技術
8. 博物館における情報資源の意義と活用(5) デジタル資料の運用と課題
9. 博物館と知的財産(1) 知的財産権としての著作権・著作支分権
10. 博物館と知的財産(2) 著作物と権利処理
11. 博物館と知的財産(3) 博物館活動における個人情報
12. 情報・メディアを活用した博物館活動(1) 展示
13. 情報・メディアを活用した博物館活動(2) 教育
14. 情報・メディアを活用した博物館活動(3) 広報・発信
15. 博物館情報・メディア論への期待と展望（全体の総括）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、授業で紹介した事例や類似事例についての関連情報を、書籍やインターネットで調べてまとめる。（60分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学III 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012年）
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）など。他は授業中に随時紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題提出（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける。
- (B) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる。
- (A) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を考案することができる。
- (S) これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内でフィードバックを行なう。

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。
各種報道やインターネット記事（SNSを含む）にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。